

2026年5月1日

Japan Institute for Health Security
国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局

報道関係各位

国立健康危機管理研究機構（JIHS）国際医療協力局の 小原 ひろみ 医師が、WHO 本部 妊産婦死亡・死因推定に 関する諮問委員会委員に就任しました

国立健康危機管理研究機構（JIHS：ジース）国際医療協力局の小原(おばら) ひろみ 医師が、世界保健機関 WHO 本部 妊産婦死亡・死因推定に関する諮問委員会委員 WHO Advisory group on Maternal Mortality and Maternal Cause of Death Estimation に就任しました。

世界では、年間約 23 万人の女性が妊娠や出産に関連して死亡していると推定され、その 9 割は低中所得国で起こっています。紛争国や脆弱国では妊産婦死亡率が高く、世界の公衆衛生課題です。国連ミレニアム開発目標や持続可能な開発目標において、妊産婦死亡の削減は国際目標となり世界の各国と援助団体が死亡低減に向けて取り組んでいるのですが、進捗は緩慢で未だ世界の多くの国・地域では「安心して出産できる」状況にはありません。

WHO は他の国際機関と協力し、妊産婦死亡率の推定を行い世界の妊産婦の健康状況の進捗をモニターしています。本諮問委員会は、妊産婦死亡率・死因の測定に関し、WHO に対して助言を行います。特に、各国が妊娠出産に関連する死亡の把握を改善し、国の報告システムを強化し、世界の妊産婦死亡率を低下させるための各国の取り組みを支援することに関して、WHO に対して助言します。

本委員会の役割は、主に以下の 3 つです。

1. 妊産婦死亡率および死因の測定・推定方法に関する科学的、技術的、戦略的側面について助言する。
2. 世界的なモニタリングの改善に向けて、妊産婦死亡率測定の問題に対処するための優先の研究課題を提言する。
3. 母体死亡率の測定に関連する国家保健統計システムを強化するための方策・戦略について助言する。

疫学、統計学、データサイエンス、産婦人科、リプロダクティブヘルス、保健医療システム分野等の世界の 15 名の専門家の一員として、小原医師は活動します。

小原医師は、産婦人科専門医であり、技術専門家として低中所得国の女性の健康改善に関する技術支援・政策支援に 25 年以上関わってきました。これには、カンボジアやラオス等における母新生児保健分野・リプロダクティブヘルス分野の支援、妊産婦死亡サーベイランスメカニズムづくり

などが含まれます。2015 年以後、WHO のガイドライン策定委員等を歴任し、周産期・新生児・リプロダクティブヘルス分野の WHO 技術書類に技術貢献しています。2020 年からの 6 年間は、母新生児保健分野のモニタリングに関する WHO 諮問委員を務めました。技術専門家としての複数の低中所得国保健省・グローバルレベルに対する助言・実務経験より、任命に至りました。

小原医師は今回の任命にあたり「世界の女性の健康改善・公平性改善に貢献したいと考えて、低・中所得国の事業・開発援助に関わってきました。信頼性の高い比較可能なデータは、格差を明らかとし、政策決定に役立て、予防可能な妊産婦死亡をなくす取組を強化するために不可欠です。このたび諮問委員会に任命され、妊産婦死亡の測定・データ利活用の改善に貢献できることを光栄に思います。すべての女性が安心して出産できる世界となるよう、委員として貢献したいです。」と抱負を述べています。

任期は、2026 年 2 月から 2028 年 2 月までです。

<https://www.who.int/news-room/articles-detail/call-for-experts-technical-advisory-group-on-maternal-mortality-and-maternal-cause-of-death-estimation>



小原ひろみ医師

【小原 ひろみ (おばら ひろみ) 医師 略歴】

青森県出身。1995 年弘前大学医学部卒業。1995 年～2000 年自治医科大学と同関連病院にて臨床、産婦人科専門医取得。2001 年～03 年 JICA カンボジア母子保健プロジェクト長期専門家（産婦人科）。2004 年ロンドン大学公衆衛生学熱帯医学大学院 疫学修士号取得。2005 年～ 国立国際医療研究センター 国際医療協力局等。2007 年～10 年 JICA「カンボジア地域における母子保健サービス向上プロジェクト」チーフアドバイザー。2011 年～14 年 WHO 西太平洋地域事務局 非感染性疾患とヘルスプロモーション部 母子保健栄養課 リプロダクティブヘルス医官。2016 年～19 年 JICA ラオス保健政策アドバイザー。2018 年国際産婦人科連合の女性産婦人科医賞受賞。2019-2024 年 日本産科婦人科学会 JICA 草の根技術協力 カンボジア女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト プロジェクトコーディネイター。2025 年 4 月より、国立健康危機管理研究機構国際医療協力局。

【国立健康危機管理研究機構（JIHS）国際医療協力局について】

JIHS 国際医療協力局は、グローバルヘルス分野における専門機関として、厚生労働省、外務省、国際協力機構（JICA）等の政府・関係機関や、世界保健機関（WHO）をはじめとする国際機関、大学・研究機関・学会等のアカデミア、さらには NGO や企業等の幅広いパートナーと連携し、低中所得国における技術協力プロジェクトへの専門家派遣、国内外の保健医療人材の育成のための講座や研修の提供、国際保健医療の研究、国際会議等を通じた政策提言など、低中所得国の医療や保健衛生の向上を図るためさまざまな活動を行っています。

国際医療協力局ではホームページ等を通じて各種情報を発信しています。詳しくは下記サイト等をご参照下さい。



<https://kyokuhp.jihs.go.jp>

★本件に関するお問い合わせ先

国立健康危機管理研究機構（JIHS：ジース）国際医療協力局 広報情報課 山田 広恵

TEL：Tel: 03-3202-7181（PHS 5163） E-mail：koho@jihs.go.jp